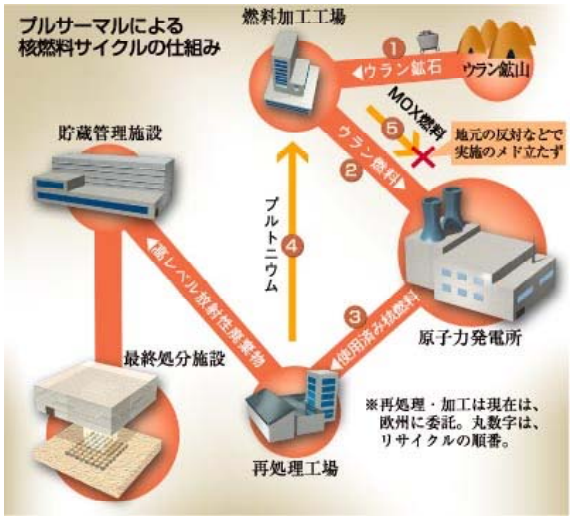
大規模といえる施設を持ち，更に新しく建設中の施設もあり、世界の再処理工場にもなり得る能力と資格があるモノと考える。

20 世紀は核に魅惑された世紀なら 21 世紀は核の悪魔に取り憑かれた世界から憑きものを追い出す一大プロジェクトが始動する世紀になる。

核強国は核拡散に怯え、兵器用核分裂物質がテロ集団に渡ることを強く警戒している、がソ連崩壊の様な不測の政変に軍事統率が混乱し核管理が杜撰になった例もあり、テロ集団ばかりか，国という組織の手に渡った可能性も否定できない。

また、ソ連邦崩壊により維持管理が困難になった大量の原子力潜水艦が放置された。単に潜水艦が朽ち果てていくわけではない，原子炉が放置され放射能も無防備のまま放置または海殁した。



国連が中心となって核管理を厳重に行うべきだろうが，これは無理なことで国連の五大理事国は核武装した強国でもあるから、自ら鎧を脱ぎ捨てることはしない。

第二次大戦が終わってから、アメリカが加盟していなかったが故に指導力が不足していた国際連盟を廃止し，アメリカが主催で国際連合が誕生、ニューヨークを本部とした。従って五大理事国は第二次世界大戦で勝利した連合国が主導権をにぎり、敗戦国となった枢軸国側は居候的のような存在でしかない。

かっての枢軸国は自らの意思なのか，強制なのか敗戦後　非核の国として現在までに至っており、さらには原発もイタリアは国民の意思で原発建設を阻止，ドイツは福島第一原発事故の後、国内全原子炉の廃炉を決めた。

わが国の意思は未だ明確ではないが、縮小、撤退の途になるだろうと推察する。

とすれば新たな核不拡散政策の先導国になれる，いやならなければならない。そうすればアメリカの様な超巨大国家の安全保障にも役立ち、一方的であった同盟の双方向性を高め、相互補完的な対等性に近づけるかも知れない。

核武装をしている五大理事国が核不拡散の先導は出来ない。